

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ JRRN 会員寄稿記事.....	9
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介.....	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクト – これから開催する「小さな自然再生」現地研修会予告

第 19 回 「小さな自然再生」現地研修会

参加受付中

※10/10 (火)
参加申込〆切



◆開催： 2023年10月15日(日) 10:00~17:00
◆場所： 滋賀県長浜市・米川
◆共催： 米川よろず会議、「小さな自然再生」研究会、JRRN
地域の老若および多くの来街者にとってとても身近な水辺である米川をフィールドに、米川とまちを行ったり来たりしながらウォークアブルな米川の未来（自然・かわまちづくり・流域治水）について考えます。
URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1405.html>

第 21 回 「小さな自然再生」現地研修会

参加受付中

※10/16 (月)
参加申込〆切



◆開催： 2023年10月20日(金) 10:00~16:00
◆場所： 兵庫県豊岡市・円山川流域出石川
◆共催： いつなつと、たかねつと、「小さな自然再生」研究会、JRRN
集落の真ん中を流れる出石川。かつての地域と川の深いつながりを取り戻すため、小さな自然再生で楽しくエコアップできる知識と技を学びながら、出石川でできることを参加者で考え見試します。
URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1395.html>

第 20 回 「小さな自然再生」現地研修会

参加受付中

※10/27 (金)
参加申込〆切



◆開催： 2023年11月3日(金・祝) 9:00~16:00
◆場所： 新潟県魚沼市・只見川水系北ノ又川
◆共催： 奥只見の魚を育てる会、「小さな自然再生」研究会、JRRN
大イワナがたくさん生息し産卵する自然環境を地元の方で再生することを目標に、イワナの生態や小さな自然再生の技術を学び、パープ工によりイワナのための淵づくりに挑戦します。
URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1414.html>

第 22 回 「小さな自然再生」現地研修会

企画調整中

※10月中旬
参加申込開始



◆開催： 2023年11月12日(日) 9:30~16:00
◆場所： 滋賀県東近江市・愛知川流域農業排水路
◆共催： 株式会社 IHI、「小さな自然再生」研究会、JRRN
自然環境や生物についての知見を深めながら、身近な水路におけるエコアップに向けてできる小さな自然再生の取組・技術を、民間企業のプロジェクメンバーと参加者とともに学び合います。

※詳細は次ページ以降のチラシをご覧ください。 (JRRN 事務局・和田彰)

滋賀県長浜市の中心で考える 「ウォーカブルな米川」の未来像

開催日
令和5年10月15日

【開催趣旨】

米川は、長浜市街地を流れ琵琶湖に注ぐ一級河川で、湧水を水源とし夏はアユが遡上する大変きれいな川です。また、まち側からのアクセスもよく、川の中をじゃぶじゃぶ歩くことができるという、全国的にも貴重な「ウォーカブルな川」と言えます。現地では地域の企業や団体、大学などの有志がグループをつくり、清掃や小さな自然再生、にぎわいづくりに取り組んでいます。

本研修会では、米川とまちなかを実際に歩き、自然環境、まちづくり、流域治水などの観点から「ウォーカブルな米川」の未来像とその具体的方法について参加者とともに考えます。

開催日時 令和5年10月15日(日) 10:00~17:00 (集合時間: 9:50)

会場 「北国街道 安藤家」 + 長浜市街地 + 米川

対象 高校生以上の関心のある方々

定員 30名(予定)

参加費 無料

持ち物 胴長靴(ウェーダー)、昼食(弁当を事前注文可能 ※裏面参照)、雨具
※胴長の貸出希望の方は申込時にお伝えください。

※参加申込方法、集合場所&会場へのアクセス、問合せは裏面参照。

プログラム ※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。
※主催者側で行事保険に加入いたします。

(10:00~12:30) 概要説明、米川&まちウォーク(現地視察)

■現地案内・進行: 竹村光雄(長浜まちづくり会社)

- 参加者とともに前半は「みち」、後半は「かわ」をフィールドワークしながら「かわ」と「まち」を学びます。

※胴長or濡れても良い服装に着替えて移動

(12:30 ~ 13:30) 昼食

(13:30~17:00) 米川を活かしたまちづくりアイデア会議

■ゲスト: 岩ヶ谷充(OVER RIVER [愛知県岡崎市])

- 米川よろず会議のアイデア紹介
- 議論「米川&長浜 これからのまちづくり」

(事例紹介: 愛知県岡崎市乙川のかわまちづくり)

(17:00) 終了・閉会



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催: 米川よろず会議、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

協力: 滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室、公益財団法人リバーフロント研究所

会場のご案内

◆ 集合場所&研修会場

ほっこりかいどう あんどうけ
「北国街道 安藤家」
 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町8-24



※JR長浜駅から徒歩3分
 ※お車で越しの方は近隣の有料駐車場をご利用下さい

申込み方法

必要事項（氏名・所属・連絡先・胴長希望・弁当注文等）を明記の上、E-mailでお申込み下さい。

申込〆切日：令和5年10月10日（火） 17:00

E-mail：info@a-rr.net

項目	記入欄	
(ふりがな) 氏名	胴長貸出希望	
所属	あり	なし
連絡先	〒	
	住所：	
	電話：	
	Email：	
弁当注文 1,200円(税込)	「湖魚の熟鮓や小鮎のへしこを味わう丘峰喫茶店のお弁当」 注目の有無 ※当日にお支払下さい	
	あり	なし



※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。
 ※当日は写真撮影及び動画撮影を行います。撮影した写真や映像は、WEBや活動報告書等で今後使用させていただきますので予めご了承下さい。

【お問合せ】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当：和田彰・阿部充)

〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所内

Tel: 03-6228-3863 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>



第21回 兵庫県豊岡市・円山川流域出石川

参加者
募集

「小さな自然再生」現地研修会

～できることからはじめよう：魚がすみやすい川づくり～



開催日

令和5年 10月20日 金

【開催趣旨】 日曜大工のような感覚で、小規模に低コストで行う「川の小さな自然再生」とはどのようなものなのでしょう。そして、地域資源のひとつである出石川を、まちづくりや地域活性にどう活かしていけるのでしょうか。さまざまな角度から愉しく学び、だれもが実践できる現地研修会を開催します。あなたのフィールドでも試してください。私たちが川でできることはきっとまだまだあるはずです。

開催日時 令和5年10月20日（金） 10：00～16：00（受付開始：9：30～）

会場 兵庫県豊岡市但東町＜座学：高橋地区コミュニティセンター / 現地：出石川＞

対象 小さな自然再生に関心のある方々

定員 40名程度（先着順）

参加費 無料

持ち物 川の中で滑らない靴（アクアシューズ、鮎たび等）、作業用手袋、雨具、昼食

プログラム

※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。
※主催者側で行事保険に加入いたします。また、主催者側でライフジャケットを用意します。

※参加申込方法、会場へのアクセス、
問合せは裏面をご覧ください。

(10:00～11:00) 小さな自然再生についての座学研修 @高橋地区コミュニティセンター

- 開会挨拶
- 小さな自然再生のすすめ ～出石川でできることはたくさんある～（三橋 弘宗：兵庫県立 人と自然の博物館）

(11:00～11:30) 出石川の移動 及び 現地活動準備

(11:30～15:30) 出石川での小さな自然再生の実践 @出石川 ※途中で昼食時間を設けます

- 現地技術指導：三橋 弘宗（同上）、「小さな自然再生」研究会
- 水生昆虫の見分け方講座
- 石組みやバープ工による手づくりでの魚の棲み家づくり 他

(15:30～16:00) 片付け 及び 座学研修会場への移動

(16:00) 閉会 @高橋地区コミュニティセンター



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：但東 野あそびくらぶ いつなつと、コミュニティたかはし たかねつと、「小さな自然再生」研究会、
日本河川・流域再生ネットワーク

協力：滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室

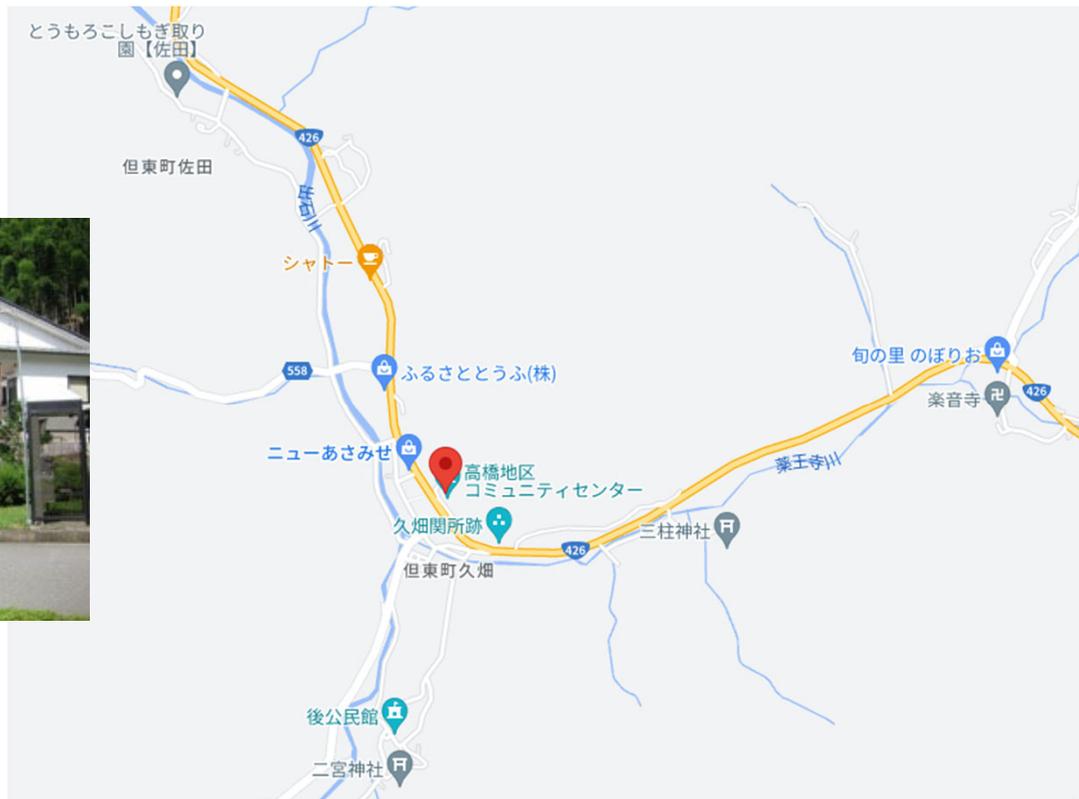
会場のご案内

研修会場

高橋地区コミュニティセンター

※研修会場へはお車でお越し下さい。

〒668-0373 兵庫県豊岡市但東町久畑830



申し込み方法

※豊岡市内にお住まいの方は、「但東 野あそびくらぶ いつなつと」facebookページ内の案内チラシを通じてお申し込み下さい。

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mailでお申し込み下さい。

申込〆切日：令和5年10月16日（月） 17:00

E-mail： info@a-rr.net

項目	記入欄
(ふりがな) 氏名	
所属	
連絡先	〒
	住所：
	電話：
	Email：

※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。

【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当：和田彰・白尾豪宏)
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所内
Tel: 03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>



第20回 新潟県魚沼市・阿賀野川流域只見川水系北ノ又川

「小さな自然再生」現地研修会

～バープで宮ノ淵を復活させよう！～

参加者
募集



【開催趣旨】 1975年、奥只見ダム湖にそそぐ北ノ又川は永年禁漁河川となり、ダム湖の大イワナを育む種川として保存され、現在に至っています。北ノ又川にある宮ノ淵は、奥只見の魚を育てる会のフィッシュウォッチングの場で、秋にダム湖から遡上する大イワナを観察する大切な淵でしたが、過去5年の大雨による土砂移動で埋まりました。今回は、バープ工法により、埋まった淵の復活を試みます。

開催日時 令和5年11月3日（金・祝） 9:00～16:00

会場 新潟県魚沼市下折立字北ノ又 <座学：銀山平温泉「白銀の湯」 / 現地：北ノ又川>

対象 小さな自然再生に関心のある方々

定員 30名程度（先着順）

※参加申込方法、会場へのアクセス、
問合せは裏面をご覧ください。

参加費 無料

持ち物 ウェーダー（胴長靴）、カッパの上着、タオル、帽子、作業用手袋、昼食、飲み物
※ライフジャケットの貸出希望の方は裏面の申込時にお伝えください。

プログラム

※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。
※主催者側で行事保険に加入いたします。また、ライフジャケットをお持ちでない方には、主催者側でライフジャケットを用意します。

(9:00～10:20) イワナの淵づくりに関わる座学研修 @銀山平温泉「白銀の湯」

- 開会挨拶
- 奥只見の魚を育てる会の取組（中島 典則：奥只見の魚を育てる会）
- イワナの生態を知る（河口 洋一：徳島大学大学院社会産業理工学研究部）
- 溪流の瀬淵構造を知る（権田 豊：新潟大学農学部農学科）
- バープ工による淵づくりの挑戦（岩瀬 晴夫：株式会社北海道技術コンサルタント）

(10:20～12:00) 昼食 及び 移動

(11:30～16:30) 大イワナの淵づくりの実践 @北ノ又川

- イワナの淵を復活させるためのバープ工・3基を制作・設置します。
■現地技術指導：岩瀬 晴夫（同上）、河口 洋一（同上）、権田 豊（同上）

(16:30) 閉会 ※現地解散



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：奥只見の魚を育てる会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

協力：新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、魚沼漁協銀山分会、徳島大学大学院社会産業理工学研究部 河口研究室
公益財団法人リバーフロント研究所

会場のご案内

研修会場

银山平温泉「白銀の湯」

※研修会場へはお車でお越し下さい。

〒946-0085 新潟県魚沼市下折立字北ノ又



申し込み方法

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mailでお申し込み下さい。

申込〆切日：令和5年10月27日（金） 17:00

E-mail： info@a-rr.net

項目	記入欄	
(ふりがな) 氏名	ライフジャケット 貸出希望	
所属	あり	なし
連絡先	〒	
	住所：	
	電話：	
	Email：	

※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承ください。

【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当：和田彰・白尾豪宏)
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所内
Tel: 03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクト 第18回現地研修会 in 岡山県和気町・日笠川 開催報告

2023年9月24日(日)、第18回「小さな自然再生」現地研修会を岡山県・和気町・吉井川水系日笠川にて開催しました。今回の取り組みは、和気町の里山、川辺を中心に子どもたちと「自然の中でおもしろい遊ぼう」をテーマに活動している「わけっこパーク」の皆さんが主催となって、地元の先達から日笠川の昔を学び、現地にて今の川への気づきを得て、川の未来をみんなと考える、そんな取組を行いました。

午前のウォーミングアップ座学研修では、リバーフロント研究所からの日笠川の地形的特性や豊富な生き物について、また兵庫県立人と自然の博物館の三橋先生から小さな自然再生による社会的な波及効果について笑いを交えながらの楽しい説明が行われました。その後日笠川に移動し、滋賀県立大学の瀧先生の指導による手作りバープ工の設置と瀬淵の創出、落差箇所への魚道の試作、同大学研究室の学生によるサーモセンサー付きドローンを使った湧水地点の撮影が行われました。また三橋先生からは、採捕された水生生物の説明、パックテストを使った水質観測について説明があり、日笠川の多様な生物や水質の特性について学びました。

再び、午後の室内座学研修では、わけっこパークの方々の進行により、参加者による日笠川の今・昔が語られました。今では国指定天然記念物となったドジョウの仲間のアユモドキをおとりにしてアユを釣った話など、貴重なお話が聞けました。さらに、日笠川の未来について、治水を考慮しつつも、きれいな水、生き物が多い川、遊べる川といった、日常に寄り添った川の姿を日笠川活発な意見交換が行われました。



「小さな自然再生のすすめ」座学研修の様子



落差への魚道設置 (研修後現況復帰)



生き物観察とパックテストによる水質観測



日笠川の未来を考える座学研修

(JRRN 事務局・白尾豪宏)

第18回「小さな自然再生」現地研修会 プログラム

9:00~10:00

<小さな自然再生のウォーミングアップ座学研修>

開会挨拶

日笠川の自然環境

(白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所)

小さな自然再生のすすめ

(三橋弘宗：兵庫県立人と自然の博物館)

10:00~13:00

<小さな自然再生の実践>

■ 現地指導講師：瀧健太郎 (滋賀県立大学環境科学部)

三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館)

13:00~14:00 昼食

14:00-16:00

<日笠川の未来を考える座学研修>

わけっこパークによる進行の元、日笠川の昔のお話を伺いながら、未来について参加者とともに語り合い。

16:00 閉会

10月



あの日のあの川 リレー日記 ～第70話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第70話主人公 仙北周平

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：北海道札幌市豊平川)

「夕べ河畔の豊平に」

いつのこと？： 高校時代

どの川？： 豊平川(北海道札幌市)

白川研究室に所属する仙北と申します。今回は私の高校時代の思い出を、母校の前を流れる豊平川の中で遡ってみたいと思います。

私の出身地である札幌市は、豊平川という石狩川水系の大きな支流が市街地を東西に分けるように流れています。札幌市は10区を有する大きな都市であり、豊平川は市民の生活圏を分ける境界ともなっているため、札幌市民はよく「川の向こうは分からない」と各々の対岸の事情について言います。私の実家は川の西側にあり、私の母校もまた川に面して西側に位置していたので、「川のあちらか、こちらか」という観点から言うと、私は地元を離れるまで「西側」の市民だったと言えます。(仰々しく「西側」などと言いましたが、実際に豊平川を境界線として、冷戦期に北海道が東西陣営に分割されているという設定の小説もあるようです。) もちろん、現実世界では兩岸の市民ともに等しく資本主義と民主主義の恩恵を享受しつつ生活しているわけですが、札幌という都市が西側から発展し、現在の中心部も西側にあるという事情からか、川の東側は社会的特性としての「下町」の雰囲気の色濃くと言えます。では反対に、西側の社会的特性は押し並べて「下町」の対称としての「山の手」であるかと言うと、決してそうではありません。札幌には、東西を分ける豊平川本体とともに、南北を地質的に、あるいは社会的特性の観点から分ける線が存在します。それは豊平川の扇状地の末端部分を示す線であり、現在の都心部付近においては、それは大体JRの線路に置き換えられるものです。より古く、多少のステータスを持っているようにも見える「西側」も、間近に寄って見れば、今日では線路によってより明瞭に分けられた南北で、互いに事情は異なり、北側が北海道大の文教地区と(恣意的な見方をすれば)「質素」な住宅街が目につくのに対し、南側は官庁街、繁華街に続いて「ハイソ」な住宅街が目につくということに大方の市民の異論は無いでしょう。上述の「山の手」を(再び恣意的に)札幌の地図の中に見出すのであれば、それは川の西側であり、尚且つ地盤の良い扇状地とその背後の山々の麓に位置するエリアということになります。そして私の実家は北側である一方、母校は南側、すなわち「山の手」に位置していました。(ちなみに西区には「山の手」という住所が存在し、ここは「下町」の対義語としての一般名詞：「山の手」が札幌において要する私の二つの条件に完全に合致した場所です。)

そんな「山の手」の母校は、私にとっては居心地の良い場所とは言えませんでした。同級生の多くは、近隣の、やはり「山の手」に位置する伝統校と言われる中学や、教育大の付属中から進学して来ており。私の体感では学年の三分の一程を占めていたと記憶しています。彼・彼女らは、入学当初から中学時代の友人と親しげに話していましたが、当時学力的にも同級生に引け目を感じていた私は、その輪には入り難さを感じたことを覚えています。もちろんそんな「最大勢力」の同級生たちも、個人個人の人間性を見れば親しみやすいことも多かったと思いますが、家庭環境や教育環境の違いから自分とは異なる文化を持つ彼・彼女らを、私は「教室」の中では最後まで仲間として見ることはあまり出来ませんでした。

しかし私の高校時代は友人に恵まれなかったわけではありません。教室では、常にどこか卑屈に構えていた私でしたが、放課後では、部活動として取り組んだテニスで素の自分を出してボールを追い、結果として、現在に至るまで親交が続く友人たちを得ることができたことは本当に幸運だったと思います。そして彼らとの友情は、学校のコートに収まりきらない一年生が、毎日出張で練習をしに行く、豊平川の河川敷のテニスコートで形作られたものでした。顧問の先生や先輩の目が行き届かない河川敷で、思う存分自由にボールを打ち合い、疲れれば堤防の階段に座って、川を眺めながら学業や友人関係などについて思いの丈を吐露し合った時間は、私の高校生活で最も有意義で、楽しくリラックスしたものでした。その後、我々同期は河川敷の修行期間を経て、新人戦を前に行われた部内戦で先輩たちを打ち負かし、我が物顔で学校のコートを占有するようになりましたが、今でも彼らと当時を振り返ると、数ヶ月に満たない河川敷での練習期間の思い出が不思議と多く語られています。

それから私にはもう一つ、豊平川の河川敷で大切な思い出があります。豊平川の河川敷では毎年7月に大きな花火大会が開催され多くの人で賑わいますが、当時付き合っていた彼女と見た花火は、今となっては高校時代の忘れられない一コマになっています。私は元来、花火というものにあまり興味がなく、一瞬の輝きとともに散りゆく儚さに日本的な美を感じない訳では無いものの、あまりにごった返す人混みの中では興醒めの念がどうしても勝ってしまい、人に誘われて観に行く度に後悔する資は今も変わりありません。当時、部活の友人に誘われた際にも私は初め面倒だと感じましたし、おまけに「浴衣を着たいから悪いが付き合ってくれ」と言われたときには良い迷惑だと思った記憶があります。（確か友人は、私の彼女と同じであるダンス部の子を誘うために、そのようなことを思いついたのでした。）当日は、高校で友人と浴衣を着込んでから、女性陣と合流という形だったと思いますが、私はいざ河川敷に繰り出そうという段に至っても、あまり乗り気ではなかったように思います。その頃、彼女の方からの告白によって始まった交際も一年が経とうとしていましたが、今思えば大変申し訳ないことでしたが、常にどこか気恥ずかしかった私はその頃に至っても、自分からデートに誘ったりするようなことはほとんど無かったです。ましてや学校のすぐ近くで行われる花火大会ともなれば、至る所に同級生の目があるわけであり、私のテンションは明らかに低かったように思います。四人で会場に到着すると、案の定友人は私と彼女を置き去りにしてどこかに消えてしまい、私は随分と冷めた心持ちで二人での会話を始めました。会話の内容はあまり覚えていませんが、耳を塞いでいても大学受験の足音が聞こえてくる時期でしたから、その迫り来るものに対する鬱々とした気持ちを私はだらだらと口にしていたのでしょう。私は、上がりそうに無い自分のテンションに諦め感じつつ、一方で、流石に彼女に申し訳ないのでは無いかという念を徐々に覚えました。しかし、彼女はそんな私との会話に付き合いながらも、嫌な顔一つせず相槌を打ち、また彼女自身の楽観的で、しかし非常にストイックなその先の展望を私に語っていた様に思います。今となっては彼女があの日、浴衣を着ていたかさえ記憶は怪しく、着ていたとしてその浴衣姿を私は褒めたのか非常に不安ですが、彼女の瞳が打ち上がる花火を映しつつ、ちょうど豊平川の水面の様に輝いている光景だけは今も昨日のこの様に思い出することができます。

私と彼女はその後、（彼女の方は彼女らしく紆余曲折を経て）それぞれの志望を叶えて、無事に大学生となったのですが、私は結局大学生になった彼女の姿を見ることはありませんでした。花火大会の頃には、まだ十分に開かれていなかった私の心でしたが、夏休みの再会を、札幌駅の北口で約束した日を迎えた頃には、彼女の人間性の深さと美しさに突き動かされて、素直に自らの思いを打ち明けられる様になっていました。しかし、ちょうどその時節山々から流れ下る雪代の様に、あまりに止め処なく溢れ出した私の思いは、二人の間に存在した愛情の微妙なバランスを崩してしまい、コロナで閑散とする新天地での生活を始めた矢先、私は彼女を失ったのでした。当時の私が悲嘆に暮れたのは言うまでもありません。

豊平川にまつわる思い出はこれらに限らず、幼少期からの記憶の節々に印象を残していると言えます。北の都を離れてから幾分か時間が経ち、日々の喧騒の中でも、常に豊平川のせせらぎが聞こえていた高校時代も、記憶の彼方へと遠ざかっていく今日この頃ですが、私にとって豊平川は、かつて育んだ思い出を運び去ってしまう冷厳な急流としてではなく、人生という名の茫漠とした大地を進む私の魂に、友情や愛情が持つ温もりをいつまでも送り届けてくれるもので合っていると願っています。

（次は三浦護人さんにバトンを託します）

会議・イベント案内 (2023年10月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 河川再生に関する国際シンポジウム

○日時：2023年10月10日(火) 13:00~17:00
 ○主催：応用生態工学会東京
 ○場所：東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3478.html>

■ 第209回 河川文化を語る会「船上講演会-川から見る東京」

○日時：2023年10月13日(金)
 ○主催：公益社団法人 日本河川協会
 ○場所：「屋形船 三浦屋」乗船場(台東区浅草橋1-1-10)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3461.html>

■ 第19回 小さな自然再生現地研修会 in 滋賀県長浜市・米川

○日時：2023年10月15日(日) 10:00~17:00
 ○主催：米川よろず会議、「小さな自然再生」研究会、JRRN
 ○場所：北国街道 安藤家/米川(滋賀県長浜市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1405.html>

■ 第31回 全国川サミット in 守山・琵琶湖

○日時：2023年10月20日(金)・21日(土)・22日(日)
 ○主催：全国川サミット連絡協議会、守山市
 ○場所：守山市民ホール 他(滋賀県守山市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4168.html>

■ 第11回 大河川における多自然川づくりセミナー

○日時：2023年10月20日(金) 16:00~17:10
 ○主催：(公財)リバーフロント研究所 リバプロサポートセンター
 ○場所：ZOOMウェビナー
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3466.html>

■ 第21回 小さな自然再生現地研修会 in 兵庫県・出石川

○日時：2023年10月20日(金) 10:00~16:00
 ○主催：いつなと、たかねと、「小さな自然再生」研究会、JRRN
 ○場所：高橋地区コミュニティセンター(兵庫県豊岡市但東町)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1395.html>

■ 第13回 全国フィールドシンポジウム in 札幌~豊平川さんぽ~

○日時：2023年10月30日(月)~31日(火)
 ○主催：応用生態工学会 普及連携委員会(札幌)
 ○場所：かでる2.7/豊平川(札幌市中央区)
<http://jp.a-rr.net/jp/>

■ 第20回 小さな自然再生現地研修会 in 新潟県魚沼市・只見川

○日時：2023年11月3日(金・祝) 9:00~16:00
 ○主催：奥只見の魚を育てる会、「小さな自然再生」研究会、JRRN
 ○場所：銀山平温泉「白銀の湯」(新潟県魚沼市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1414.html>

冊子等の紹介 *Publications*

❏ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編(第2集)の印刷製本版を普及中です。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集：「小さな自然再生」研究会
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- 発行年月：2020年3月

❏ 送付申込→ <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

本事例集の印刷製本版の送付をご希望の方は、送料(250円)のみご負担頂いた上で、2冊を上限に無料でご提供致します。

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>